

我が母校は今年創立70周年を迎えます

1940年（昭和15年）青山の地で呱呱の声をあげた我が石神井は今年で満70歳。これを記念して来る10月30日（土）に母校において記念式典と祝賀会を挙ります。詳しくは本誌の関連記事をご覧ください。

《会員への大切なお知らせです》

2010年6月2日

会員各位
同窓会会長 城 和裕

定期総会開催のご案内

2010年度の定期総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 2010年7月31日（土） 午後1時30分から
2. 場 所 母校4階視聴覚ホール
3. 議 題 議案、報告事項、関係資料は本誌の4頁以下に掲載してありますのでご覧ください。

本総会終了後、簡素な懇親会を用意しております。しばらくの間、ご歓談くださるようお願いいたします。

以 上

**定期総会開催
2010年7月31日（土）**



**母校70周年記念式典
2010年10月30日（土）**



都立石神井高校
同窓会広報誌
『きずな』
第59号

2010年6月発行

発行人 城 和裕
編集人 佐藤 健
発行所
都立石神井高校
同窓会事務局
〒164-0002
中野区上高田1-14-7
(石神井倶楽部)
TEL.03-3319-1122
印刷所 (株)文明社



母校70周年記念式典、祝賀会のお知らせ

<p>と き：2010年10月30日土曜日10時より12時30分まで 受付は9時30分より開始いたします。</p> <p>ところ：本校体育館</p> <p>式次第：学校長挨拶 同窓会会長挨拶 来賓挨拶</p>	<p>記念講演 古在 由秀氏(中1回)元国立天文台長 海老澤 敏氏(高3回)元国立音楽大学学長 両氏の略歴はインタビュー記事をご覧ください。</p> <p>吹奏楽部演奏</p>
--	--

祝賀会は13時より多目的ホールにて開催いたします。会 費：3,000円

2008年に完成した新校舎の見学を兼ねて、ご家族、友人お誘い合わせの上ご参加ください。祝賀会では、楽しい企画の数々を予定しています。お楽しみに！
当日受付、誘導等お手伝いいただける方は、下記までご連絡ください。副会長 勝見 鈴代
TEL：03-3329-1037 携帯：090-2307-7710 Eメール：suzuyo@vin-mousseux.com

も く じ	定期総会開催のお知らせ…………… 1	母校の近況報告…………… 9
	ご挨拶…………… 2	生徒の活動状況…………… 10
	総会議案資料…………… 4	『同窓会の輪』の動き…………… 12
	決算報告…………… 7	投稿記事…………… 13
	山荘通信…………… 8	編集後記…………… 24



ご挨拶

名誉会長（校長） 小池 幸彦

石神井高校同窓生の皆様、日頃より本校の教育活動にご理解ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。私も昨年の4月に本校に着任以来、城会長様をはじめ同窓会の皆様にいろいろと教えて頂きながら一年間を過ごすことができました。

さて、この3月には、本校の定時制課程が2,076名の卒業生を社会に送り出し、62年間の歴史に幕を閉じて閉課程いたしました。石神井高校は今後、全日制課程のみの学校となります。

全日制課程は今年度70周年を迎え、10月30日には記念式典を本校体育館にて挙げる予定です。

また、今年度より3年間、東京都の重点支援校に指定されましたので、石神井高校をさらに良い学校にするための取組みを進めてまいります。長い歴史と伝統を大切にしながら、新しい試みも打ち出していきたいと存じます。微力ではございますが頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。はなはだ簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

《ご本人のプロフ》

1952年6月23日生・辰年・蟹座



趣味

クラシック音楽・旅行・スキー

ご挨拶

同窓会会長 城 和裕（高12回）

今年は全日製の卒業式に招かれて祝辞を述べ、定時製の卒業式にも初めて出席させて戴きました。お祝いに両方の卒業生の皆さんに紅白の饅頭を差し上げました。

62年続いた定時制も今年を最後として29名の卒業生を送り出して閉課程となりましたが、その卒業生総数は2,076名となります。

そして定時制の皆さんから、教育支援基金の口座に68万5千円以上のお振込みを戴き、そのご厚志に対して、厚く、篤く御礼申し上げます。

母校の卒業生総数は2万5千人と言われておりますが勿論、定時制の皆さんも含まれているのですが、こんなに母校の発展を願う皆様が大量に居られることは嬉しい限りです。

そして教育支援基金から補助した、今年の3月にブリティッシュヒルズに参加された生徒さん達から『英語に生で触れて、とても好きになりました』とのお礼のハガキを沢山頂戴しましたことをご報告いたします。次は10月30日(土曜日)の母校創立70周年の祝賀会の事ですが、文化功労者に成られた先輩、古在由秀氏（天文学の大家）・海老澤敏氏（モーツァルト研究の大家）のお二人にご出席とご講演をお願いしたところ、快諾を戴きました。

皆さんも当日は貴重なお話が聞けると思うので、奮ってご参加戴けます様にお待ち申し上げます。

同窓会を詳しく掘り起こして行くと立派な人財が沢山いらっしゃる事が判明致しましたのでご紹介を兼ねて今後も『きずな』で取材して一覧表を作成して行きたいと考えております。

尚、5年に一度の同窓会名簿も無事、発刊出来ました事を有難く申し添えます。

《ご本人のプロフ》

1941年8月11日生・巳年・獅子座・O型



職歴

外食産業の経営一筋

趣味

旨いもの探し、特にシシリーワインを好み、毎年現地で試飲痛飲している。
ゴルフ、旅行
《好きなタレント》
宝塚元女優の玉城あけみさん

石神井定時制の閉課程に当たって 定時制副校長 清水 進

石神井定時制は、本年三月末をもちまして閉課程を迎えます。全日制同窓会の皆様には、六十二年間大変お世話になりました。この紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

特にこの数年間は、城会長のご厚意に甘え、総会や三者懇に度々出席させて頂きました。楽しい一時を過させて頂き、感謝致しております。

さて、石神井全日制は、今秋七十周年記念式典を挙行されることと、伺っております。また、来年度からは、重点支援校にかかわる教育活動も活発化することと、存じます。この機会に武(スポーツや学校行事)だけでなく、文(日々の学習活動)も一段とレベルアップされることを期待しております。

今春より学校はかわっても、石神井の限りなき発展を、心の底からお祈りしております。

《ご本人のプロフ》

1953年10月23日生・巳年・天秤座・B型



職 歴

石神井高校定時制4年間勤務

趣 味

剣道・読書

お知らせ

同窓会役員会

同窓会では、会員同士の連携強化のため、皆さまが気軽に集まっていただける「場」として、青山石神井倶楽部・「二火会」を発足しました。

毎月第2火曜日にフリーに利用できる会場を提供するものです。実施方法は以下の通りです。奮ってご活用いただくよう、お知らせします。

会の名称 **青山石神井倶楽部・「二火会」と称する。(略称「二火会」)**

開催の日 **毎月第2火曜日の午後4時から(当日が休日の場合は翌日)**

場 所 **レストラン「あおしま青山店」**

〒107-0061 港区北青山1-2-3(青山ビル地下1階)

TEL/FAX 03-3403-3461

E-mail:ao@seitow-aoshima.co.jp

交 通 地下鉄 銀座線、半蔵門線、大江戸線の「青山1丁目」下車0番出口からエスカレーターを利用し、次に階段を18段(10、5、3段)上がって入口右側

その他 **予約の必要もなく、人数の制限もありません。グループごとにテーブルを用意しますので自由にご歓談できます。**

セットメニューの「お任せコース」を3000円で提供しますから安心です。もちろん別オーダーや追加注文も可です。

会員だけでなく、**ご家族、職場の友人などの同伴もOK**というオープンな運営です。毎月の役員会も、できるだけこの日に合わせるようにしますから、お声をかけてください。

2010年度定期総会 議案資料

1. 日 時 2010年7月31日(土) 午後1時30分
2. 場 所 母校4階視聴覚ホール

議 題

- 第1号議案 2009年度事業報告
- 第2号議案 2009年度収支決算および会計監査報告
- 第3号議案 2010年度事業計画
- 第4号議案 2010年度収支予算
- 第5号議案 規約の一部変更
- 第6号議案 役員の補充選任

報 告 事 項

- 1 教育支援基金の運営状況および基金特別会計の収支について
- 2 本校創立70周年記念行事について
- 3 その他



第1号議案 2009年度事業報告

- 4月 入学式に会長、副会長出席
役員会開催(きずな発行、総会関係)
同窓会の輪開催
- 5月 きずな発行
役員会開催(総会、懇親会関係)
母校体育祭視察
- 6月 先生との交流会開催(同窓会活動への理解、先生方との意見交換が出来て、大変有意義であった)
6月20日2009年度定期総会を開催し、提出した第1号議案から第6号議案まで出席者全員異議無く承認された(議案については「きずな」58号に掲載)。総会終了後、懇親会を新校舎定時制食堂にて開催、校長先生始め旧制中学から高校の同窓生が終始和やかに歓談した。
- 7月 役員会開催(教育支援基金、総会議事録、70周年事業、文化祭参加関係)
三者協議会開催(70周年記念事業関係)
- 8月 役員会開催(70周年記念事業、教育支援基金、文化祭参加関係)
- 9月 参加を予定していた文化祭は、インフルエンザの為急遽予定が変更となり、校内発表会となった為、今期は不参加となった。
- 10月 10月4日校歌祭に参加(役員、同窓生30名参加、石吹OBと現役20名参加)
終了後反省会開催
役員会開催(教育支援基金、同窓会の輪、三者協議会、70周年記念事業、きずな発行関係)
同窓会の輪を白馬の黒菱山荘にて開催(大泉高校同窓会4名、井草1名、武蔵2名、教師5名役員4名、前校長が参加)
- 11月 役員会開催(新HP製作、70周年記念事業、教育支援基金、きずな発行関係)
HP検討委員会を2回開催。20回生が新たに2名参加し、4月より新しいホームページを提供する方向で検討することになった。
- 12月 役員会開催(70周年記念事業、教育支援基金、きずな発行、決算関係)
- 2010年1月 三者協議会開催(70周年記念事業について)
- 2月 役員会開催(教育支援基金、70周年記念事業、きずな関係)
HP検討委員会開催(今後のスケジュール確認)
- 3月 卒業式に会長、前会長、副会長出席し、会長挨拶、卒業生(定時制も含む)全員に記念の紅白饅頭を贈呈。
役員会開催(教育支援基金、名簿発行、きずな、新役員、総会日程関係)

第2号議案 2009年度収支決算および会計監査報告

2009年度の本会の収支決算は、別表「2009年度収支決算報告」のとおりである。

第3号議案 2010年度事業計画

- 4月 入学式に会長、前会長、副会長出席
同窓会の輪開催
役員会開催（教育支援基金、総会、きずな発行関係）
- 5月 きずな発行 三者（学校PTA同窓会）協議会歓送迎会開催
役員会開催（総会、教育支援基金、開校70周年記念事業関係）
母校体育祭を視察
- 7月 役員会開催（教育支援基金、開校70周年記念事業、母校文化祭参加関係）
2010年 定期総会
- 9月 役員会開催（教育支援基金、開校70周年記念事業、校歌祭、母校文化祭参加関係）
母校文化祭に参加
- 10月 校歌祭に参加（現役、OB吹奏楽部、役員、同窓生40名参加予定）
終了後反省会開催
- 10月30日（土）本校70周年記念式典開催
同窓会の輪開催
- 12月 役員会開催（黒菱山荘50周年記念事業他来年度事業計画関係）
- 2011年2月 役員会開催（総会、決算、予算関係）
- 3月 卒業式に会長、副会長、役員出席
卒業生全員に記念の紅白饅頭を贈呈
役員会開催（総会、きずな発行関係）
毎月第二火曜日に青山石神井倶楽部・「二火会」開催
役員会は原則として毎月第二火曜日に開催
この他、必要に応じて役員会、打合せを開催することがある。

第4号議案 2010年度収支予算

2010年度の本会の収支予算は、別表「2010年度収支予算」のとおりとする。

第5号議案 規約の一部変更

事業の機動的展開に資することを目的に、本会の役員に「執行役員」を新設することとし、これに関連する規約の一部を次のように変更する。

1. 規約第9条（役員）の規定に「7. 執行役員11名以内」を新設する。
2. 規約第10条（役員を選任）に「3. 執行役員は、通常会員の中から役員会の承認を得て、会長がこれを選任する。この場合における通常会員の定義については、前項の「ただし書き」を準用する。4. 執行役員を選任、異動に関しては、その後に開催される総会において承認を得ることとする」を新設する。
3. 規約第11条（役員の職務）の規定に「6. 執行役員は、会長の指示により、専らその指示事項の処理を担当する」を新設する。
4. 規約第13条（役員会）の規定に「執行役員」を加える。
5. 付則の3を設け「この規約の変更は、平成22年7月31日から施行する」を追加する。

なお、本日の定期総会において、この議案が承認され即日施行されることを条件に、執行役員を委嘱する方々は、以下のとおりである。

- 中谷 祐二（高34回）同窓会の輪担当
- 泉水 裕二（高33回）教育支援基金担当
- 石川 和寿（高9回）きずな発行担当

第6号議案 役員の補充選任

本会役員(書記)の竹村洋子(高17回)さんが一身上の都合により退任したので、その補充役員を選任する。新任候補者は次のとおりである。補充役員の任期は2011年度の定期総会終了のときまでとする。

補充役員候補者 書記 黒川寛恵(高17回)

報告事項

教育支援基金の運営状況および基金特別会計の収支について

2009年度教育支援基金事業について(報告)

本年度中に受け入れた拠出金は207件、金額2,122,371円である。
 この中には本校定時制の終了に伴う拠出金685,594円が含まれていることを特記する。
 本年度中に教育支援のために支出した明細は以下の通りである。

教育支援のための支出明細		円
水泳部関東大会・総体出場応援補助	50,000	
地球のステージ公演費補助	33,300	
ブリティッシュヒルズ講習料補助	150,000	
2010年度サテライト講座講習料	750,000	
教育支援支出合計	4件	983,300

2009年度基金特別会計収支報告

2010.3.31

金額単位 円

収入の部	金額	前年度増減	説明記事
前年度からの繰越金	1,752,890	1,752,890	
本年度受入拠出金	2,122,371	-216,629	拠出者207名 *注
昨年度支出分の一部返戻金	44,494	44,494	
収入金合計 A	3,919,755	1,580,755	
支出の部	金額	前年度増減	説明記事
教育支援のための支出	983,300	428,300	
支払手数料	25,210	-5,900	郵便口座振替手数料
支出金合計 B	1,008,510	422,400	
収支差額A-B	2,911,245	1,158,355	次年度への繰越金

*注 定時制からの拠出金685,594円を含む。

平成21年度 黒菱山荘会計報告

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

【収入の部】	金額	備考
助成金	500,000	同窓会より助成金
PTA助成金	50,000	PTAより助成金
宿泊費	390,000	
受取利息	140	
計	940,140	
【支出の部】	金額	備考
交通費	140,000	高速道路料、リフト代他
通信費	31,862	電話代、切手、はがき、郵送料
水道光熱費	123,718	水道代、プロパン代他
会議費	151,375	山寮協議会宿泊費・懇親会費、月例会議、総会懇親会他
会費	5,000	山寮協議会年会費
修繕費	31,133	設備関係補修費等
備品費	74,042	什器備品費、鍋釜等
雑費	28,509	ゴミ処理費、お土産、お見舞い、消耗品
借地料	150,000	借地料
山荘管理費	50,000	山荘管理費(対岳館)
修繕準備金	154,501	黒菱山荘修繕準備金へ(平成21年度一般会計残金)
計	940,140	

2009年度(平成21年度) 決算報告書

(2009年4月1日～2010年度3月31日)

収入の部

	2009年度予算	2009年度実績	備 考
前期繰越金	15,041,376	15,041,376	
(内運営基金)	14,192,253	14,192,253	
入 会 金	1,134,455	1,135,000	227人×5,000円
年 会 費	3,000,000	3,494,000	
雑 収 入	20,000	37,221	利息
合 計	19,195,831	19,707,597	

支出の部

	2009年度予算	2009年度実績	備 考
総 会 費	180,000	99,941	
本 部 費	400,000	702,514	
広 報 費	1,700,000	1,905,649	きずな作成費
発 送 費	1,800,000	1,755,519	きずな発送費
行 事 費	200,000	100,000	校歌祭参加費
山 荘 費	500,000	500,000	
新会員費	140,000	126,735	榮太楼饅頭
母校援助	500,000	-	
予 備 費	200,000	193,260	振込手数料等
小 計	5,620,000	5,383,618	
次期繰越金	13,575,831	14,323,979	
合 計	19,195,831	19,707,597	

上記の通り、2009年度会計収支を決算して報告いたします。

会 計 上 野 俊 彦

上記会計収支決算を監査した結果、適正であることを認めます。

2010年4月21日 会計監査 栗 山 隆
会計監査 広 瀬 由 貴

2010年度(平成22年度) 予算案

収入の部

	2010年度予算	備 考
前期繰越金	14,323,979	
入 会 金	1,085,000	
年 会 費	3,500,000	
雑 収 入	35,000	
合 計	18,943,979	

支出の部

	2010年度予算	備 考
総 会 費	150,000	
本 部 費	700,000	
広 報 費	2,000,000	
発 送 費	1,800,000	
行 事 費	300,000	含70周年記念行事関連
新会員費	140,000	
母校援助		
予 備 費		
小 計	5,090,000	
次期繰越金	13,853,979	
合 計	18,943,979	





山荘通信

～黒菱山荘今日この頃～

黒菱山荘へ行ったら八方尾根を登りましょう。ゴンドラリフトの終点から唐松岳山頂を目指します。この尾根はケルンが多くて有名。最初に出会うのが石神井ケルン。感激です。私の年だと、ここまですか登れない。いや、ここまでは登れます。詳しくは、インターネットで検索してください。いい写真が出てきますよ。

今が旬 ～黒菱山荘を訪ねて～

浦川 伸一(高32回、副会長、山荘委員会委員長)

石神井高校の校舎が新築されたこともあり、受験倍率がとても高いとお聞きしました。山荘委員会の会合で頻繁に学校を訪れていますが、校舎は一新されたものの、石神井の伝統は相変わらずこの武蔵関の土地に根付いていると、学校の門をくぐるたびに感じます。多くの同窓生の皆さんは、まだこの真新しい校舎に足を運んだことがないと思います。なかなか際立った用事がない限り、母校を訪れるというチャンスはないものですね。

長野県白馬村にあるこの黒菱山荘も、遠い学生時代に訪れて以来、記憶のかなたに忘れ去られてしまっている方々も多いと存じます。山荘もいよいよ来年で建立50年。節目の年を迎えます。こちらは校舎のように全面建て替えとはいきませんが、10年前の大規模改築工事のおかげで保存状態は格段に向上し、利用者の皆さんに好評を博しています。真冬でもかなり暖かいし、夏はクーラー要らずの快適な気温。

現役の高校生利用も、多くはありませんが、一部の教員らのご協力もあり、利用が継続しているのは喜ばしいことです。ここに今年3月まで石神井高校化学科教諭で勤務されていた泉水先生(高33回)から寄稿いただいたので、ご紹介いたします。

今でも、高校生にとっての山荘は、世代を超えた価値を感じてくれているのではないかと思います。白馬村の方々のたゆまないご努力のおかげで、この美しい土地は長らく変わることなく、美しい空気、木々、山々、そして暖かい方々が我々を迎えてくれます。

不景気なこの時代、白馬へのチープトリップを企画なってみてはいかがでしょうか。同期の皆さん同士など、ぜひお気軽においでください。

問い合わせ先

黒菱山荘委員会副委員長 泉水裕二(高33回)

090-3512-8423 まで



2009夏黒菱トレッキングツアー

同窓会の企画として、夏休みに生徒対象のトレッキングツアーを企画しました。参加希望生徒は4名と少人数でしたが、石神井生に黒菱山荘を知ってもらう意味でも、実施することにしました。

初日は、天候にも恵まれ白馬村に到着してからは、昼食に蕎麦を食べ(最近白馬村のそばはおいしいと評判です)、大出の吊り橋からの白馬三山を楽しみ、買い出しをして、15:00ぐらいに入荘しました。片づけ後、山荘周辺を散策し、黒菱の足湯(2009よりスカイラインリフト降り場付近につくられました)につかりました。早めの夕食をとりサマージャンプのFIS大会の予選を見るため麓の白馬ジャンプ競技場に行きました。生徒たちは初めて見るジャンプ競技、しかもナイフジャンプに興味していました。

2日目は、山荘上部はあいにくの天候で、予定していた八方池までのトレッキングを麓散策に切り替えました。(麓は比較的気候も良かったので)午前中は、トンボ玉体験をし携帯ストラップ等を熱心に製作していました。その後岩岳ゴンドラで岩岳山頂のユリ園の中で自分たちで作った昼食を食べました。下山しておびなたの湯(露天のみ)に入り夕方は山荘前でバーベQをやりました。夕食は58期の大塚さん一家も合流しにぎやかでした。

3日目は、すこし霧がかかっていましたが、八方池までのトレッキングをしてきました。残念ながら、三山を見ることはできませんでしたが、雲の切れ間から五龍・鹿島槍・不帰の嶮を見ることができました。そして、石神井ケルンで記念写真を撮り、八方尾根に石神井が根付いていることを実感しながら下山しました。

今回は参加者が少なかったのですが、逆に小回りが効きいろいろなことをすることができました。生徒たちは一様に大変楽しく、また参加したいと言っていました。今後も、このようなかたちで黒菱山荘が利用されるよう、私たち山荘委員会としても協力していきたいと思っています。



《母校の近況報告》

ありがとうございます。教育支援基金を有効に使わせていただいています。

皆様から拠出していただきました、教育支援基金は次のようなかたちで使わせていただきました。

水泳部関東大会応援費用

50,000円

地球のステージ(授業奉仕の講演会)補助金

33,300円

ブリティッシュヒルズイングリッシュキャンプ

講義費用

150,000円

サテライト講座費用

750,000円

水泳部 関東大会・高校総体出場!

2009年7月、水泳部現2年生の菅谷麻那さんが、栃木県小山市で行われた高体連主催水泳関東大会に出場しました。そこで、高校総体の標準タイムをクリアし、8月に行われた『まほろば総体』(大阪市)に出場することができました。関東大会には、水泳部の仲間たちが応援にかけつけました。教育支援基金より5万円を水泳部の応援費用(おもに交通費に充当)として使わせていただきました。記録は以下の通りです。

出場種目 競泳 200m個人メドレー

関東大会 記録 2' 24" 95

高校総体 記録 2' 24" 78

今年も活躍が期待されます。みなさん応援よろしくお祈りします。



ブリティッシュヒルズイングリッシュキャンプ

(英語科担当)

2009年度も、3/29～3/31に福島県にあるブリティッシュヒルズで、留学体験をしてきました。今回参加生徒は13名で、昨年より大幅に増加しました。短い時間でしたが、生徒たちは異文化空間で新たな経験をしてきました。今後の学習にも活かされることと思います。現地での講習費用の大半を教育支援基金より支出していただきました。参加生徒のコメントです。

○ブリティッシュヒルズでの授業は学校と同じような英語の勉強をするのだと思っていたのですが、ゲームをしたり料理をしたり、勉強というよりは英語

に触れるということを目的としたもので、授業以外では、映画を見たり、買い物をしたり、プールに入ったりと暇がないほど充実していました。来年もみんなで行くつもりです。

○私は海外へ行った事はありませんが、国内で留学した気分になれるブリティッシュヒルズにとっても興味を持ち、友達と参加しました。私は英語が話せないのが不安でしたが、現地では生の英語に触れることができ楽しく過ごすことが出来ました。英語に興味を持つことができ、良い経験になりました。



週に1日、授業の後に『サテライト講座(英語)』
(進路部担当)

3月に卒業した62期生は、有名大学に多数合格しています。結果を出した彼らのように、「自学自習のできる生徒」「最後まで頑張りきることできる生徒」を育てるために、平成22年度よりサテライト講座を始めます。勉強に対しての動機づけとなることを期待しています。現在、2年が5名、3年が30名、計35名が参加していますが、更に多数の生徒の参加が予想されます。今回、教育支援基金で講座料金を負担していただきましたので、生徒はテキスト代のみ負担となっております。今後とも石神井生のよりよき成長のために、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



《生徒の活動状況》



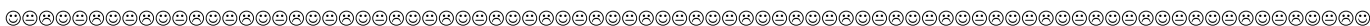
①生徒会

2009年度は、生徒会新聞を発行し、その中で先生方（新しく石神井にいらした先生を中心に）のインタビュー記事の特集を行い皆さんから大変好評でした。また、生徒の生の声を聞くため『意見箱』を設置し、学校生活が快適になるように改善をしました。近隣の『やすらぎの杜』（知的障害者援護施設）の運動会などのお手伝いを生徒会が中心となって行いました。



②体育祭実行委員会

今年の体育祭は、5月29日（土）に実施します。『石神井』の体育祭の伝統を守るために生徒一丸となってがんばっています。『きずな』が届く頃には、今年の体育祭は終わってしまっているかもしれません。今後の日程等は学校HPでご確認下さい。



③文化祭実行委員会

今年の文化祭は9月18日（土）～19日（日）です。昨年度は新型インフルエンザのために中止（後日、校内発表のかたちで未公開で行いました）となってしまう、たいへん残念でした。今年は去年の悔しい思いの分も含めて、学校全体で大いに盛り上げていきたいと思っています。皆さん、是非いらして下さい。今年は同窓会としての参加を予定しています。



着任のあいさつ 倉口 勉（高33回）

今年度より、芦花高校より母校に異動してまいりました。教科は保健体育、部活動は男子バスケットボール部を担当いたします。私は33回の卒業生で、高校時代は男子バスケットボール部に所属しており、石神井高校での思い出という部活動の思い出しかないといっても過言ではないほど、部活動一色の高校生活を送ってきました。教員として石神井高校に戻ってきて、正門あたりは昔の雰囲気が少しは残っているかと感じましたが、中に入ると昔の石神井高校の雰囲気があまり残っていないような感じを受けました。また、生徒たちも昔と比べると変わったような感じがしています。（まだ、少しの間の感覚なので、これから変わるかもしれませんが・・・）ただ、昔と変わらないものがあります。それは、生徒たちが部活動を一生懸命行っている姿です。この姿だけは、今と昔とあまり変わっていないかと感じます。

私自身、赴任したばかりで、まだ今の石神井高校を知らないことがたくさんありますが、石神井生の先輩として、教員としてできる最大限のことを行い、石神井高校がさらに発展していけるよう頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いたします。



「webきずな」オープン

<http://www.shakujii-club.gr.jp/>

～同窓会ホームページをリニューアル～

橋本、中津川、勝見(高20回)
板谷(高27回) 泉水(高33回)
澤村、重松(高50回)

今夏、同窓会のホームページが、「webきずな」としてリニューアルします。

新しいホームページは、webの特長を活用。同窓会の最新情報や会員交流ページのほか、代々の校舎などの懐かしい風景、現在の母校、それに黒菱山荘の現況(といっても50年前と変わりません)やOBインタビューなどもお届けの予定です。

(この原稿を書いている)4月現在、資料収集やコンテンツの構成を詰めている真っ最中ですが、本紙「きずな第59号」がお手元に届く頃には、「webきずな」もスタートしている予定です。

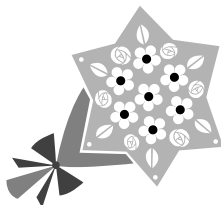
ただ、未完な部分や不備な点がまだ残っていると思います。今後は、皆様の声を伺いながら、漸次充実させていくつもりです。アイデアやご意見、どしどしお寄せください。また、制作に携わりたい方も大歓迎です。「webきずな」、これから、どうぞよろしくお願いいたします。

●最近、部外者の心ない書き込みが増えているため、セキュリティ管理を強化します。それに伴い、会員の方が書き込んでから掲出されるまで多少時間がかかる場合があると思います。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

2010年度 母校教職員の人事異動

転出

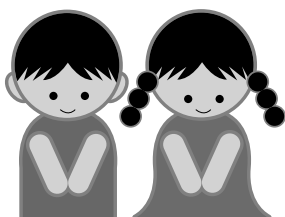
お世話になった先生



職名・教科	氏名	転出先等
国語科	糸井 明子	高島高校
地歴科(世界史)	松谷 健司	退職
地歴科(地理)	大杉 芳明	光丘高校
地歴科(日本史)	石原 剛	東村山西高校
数学科	品田麗絵子	小平西高校
理科(化学)	泉水 裕二	第四商業高校
保健体育科	後藤 辰雄	光丘高校
英語科	杉山 朱美	井草高校

転入

新しくいらした先生



職名・教科	氏名	前任校等
国語科	小堀 拓海	新規採用
地歴科(世界史)	遠藤 あき	日本橋高校
地歴科(日本史)	加藤 健	清瀬高校
地歴科(地理)	堀越 高行	大泉高校
数学科	富重 文孝	府中工業高校
数学科	福井 諒子	新規採用
理科(化学)	谷川 直	田柄高校
保健体育科	倉口 勉	芦花高校
英語科	影山 司	鷺宮高校
数学(非常勤)	加藤 洋二	清瀬高校
英語(非常勤)	井坂富美子	北多摩高校

『同窓会の輪』活動報告

2009年10月17日～18日白馬にて開催されました。参加者は、大泉4名、井草1名、武蔵丘2名、石神井4名福本氏(前校長)、先生方5名の計17名

全員で夕食準備、夜遅くまで各校ごとの現状報告、今後さらに参加校を増やし、活動内容を明確することを確認。

あくる日は、トレッキング、青木湖遊覧船などを楽しみ、解散。

副会長 勝見鈴代(高20回)



同期会情報

シーラカンス21同期会のご案内

32期同期会

32期卒業生の卒業30周年記念パーティーを予定しています。既にご案内ハガキをお送りしていますが、ふるってご参加をお願いします。

7月11日(日) 13:00～

グランドプリンスホテル赤坂

連絡先:押切 090-8847-4978

昭和44年卒業の第21回生集まれ!

日時 11月6日(土) 午後5時から

場所 吉祥寺第一ホテル

詳細決定次第「はがき」等でご連絡しますので、この日を空けておいてください。

幹事 佐久間利和 TEL03-3997-0858

道家 正昭 TEL03-3920-7417

同窓会事務局への連絡方法

宛先は 都立石神井高校同窓会事務局 〒164-0002 中野区上高田1-14-7 「せいとう」本部内

TEL/FAX:03-3319-1122 E-mail:jo-k@seitow-aoshima.co.jp

なるべく、手紙、ファックス、メール等をお願いします。母校では対応できないことを、ご理解願います。

石神井高校道楽道中記

澤村 泰寛(高50回)

高校時代の私は、曲がりなりにも同窓会誌に載せて頂けるような人物ではありませんでした。成績は下から数えた方が早く、NHKの朝の連ドラを見てからの通学なので、遅刻も三年生の時には三桁。出席日数もギリギリの成績で卒業したと覚えています。そのせいもあり、代々木の予備校に二年ほど通い、大学へ入りましたが、大学での勉強した記憶も無く卒業し、小学校の卒業アルバムに書いてあった「大手メーカーに入る。」の目標どおり、何故か就職が出来ました。(いや、ちゃんと努力はしましたよ…。)

社会人になってからは、会社内を事業計画、マーケティング、Webプロデューサーと転々と過ごし、繋がりが全く感じられない中、キャリアも無く、無謀に転職をしましたが、会社組織には馴染む事が出来ずに、現在に至ります。石神井の70年の歴史、先輩方に比べれば、まだ若輩者ですが、後輩の方にはこういう過ごし方をしている石神井生もいると覚えて貰えればと思います。

略歴：慶大中退。日本電気株式会社、東京海上日動火災保険株式会社を経て、現在はフリー

物忘れに閉口

鬼澤 英雄 (高8回)

8期生も今年の誕生日で73歳。いよいよ人生の円熟期に入り、病気自慢や物忘れ自慢で話しが盛り上がっています。懐かしい人と待合室でバッタリの再会が増えてきました。同期のゴルフ懇親会「牛歩の会」も例会が盛んで、この春の3月には第51回目を岡部チサンCCで開催し、あいにくの雨模様でしたが総勢6組の混戦の中、優勝は今泉君。悪コンディションをうまく回避しての技術がモノ言ったようです。

また「エイト会」のお楽しみ懇親パーティは、去年の秋10月に東京駅近くの富士屋ホテルで開催され、前回の鬼怒川温泉に引続いての盛況ぶり、49名の参加があり昼食をはさんでのおしゃべりタイム3時間が、アツという間に過ぎてしまい、惜しくも次回の再会を約して散会となりました。

もうこの歳になると恩師先生を迎えることも叶わず、やむを得ませんね。

「きずな」発行所のサラト社から同期生の住所不確定者のリストを頂いています。

8期で男70名、女23名。転勤、転居、結婚などで連絡が消えやすくなるのでしょうか。事務局幹事などに問い合わせしても、ほとんど分からずで卒業以来の年月を感じます。

母校も新装なった4階建ての新校舎で、この秋10月末には創立70周年の祝典が予定されています。

「きずな」にも行事の案内や生徒の活動ぶりなどの、現況報告が紙面にも詳しいでしょうが、不明になっている同期生にも届けたいものです。



09,10,21 八重洲富士屋ホテルにて

「“癩爺”高校に思う」

上野 俊彦 (高17回)

ワープロを使い始めた最初の頃、“石神井高校”と入力しようとする“癩爺高校”と出て啞然としたことがある。その後で、そう言えば試験の度にひねくれた問題を出す癩にさわる爺さんもいたなあ、と妙に納得したものである。

しかし考えてみれば「日暮里」を「ひぐれざと」と読んでしまうように、「石神井」と書いて「しゃくじい」と読める人は東京近郊に住む人以外にはそういないのではなかろうか。中学時代に進学する高校を決める時、初めて「石神井」の読み方を知った人もいるはずである。石神井の名前の謂れは「石神(いしがみ)」の「井戸」であろう。「石神」とは石で造られた神体、つまり珍しい石、神聖な石、石剣などである。昔この地で井戸を掘ったところ土中から石で造った剣が現れたことから「石神の井(いしがみのい=しゃくじんのい)」と呼ばれるようになったという説もある。

いずれにせよ、還暦を疾うに過ぎた今、後輩から“癩爺”呼ばわりされることなく、母校に何らかの恩返しができるかと考えている。

会費納入のお願い

同窓会は会員からの年会費により運営されています。その会費納入率は一向に改善されておりません。事業の積極展開が、困難になってまいりました。その辺の事情にご理解を賜りたく存じます。いまさら言うまでもなく、事務局関係者は手酌、手弁当、足代自己負担のボランティア活動でございます。

活発な13回生の分科会活動

13回生は、5年毎の同期会の他、登山、スキー、ゴルフコンペ、様々なグループの忘年会、単なる飲み会などなど多彩な分科会を数多く開催し同期のきずなを深めています。2009年の様子を写真を中心にお知らせします。

なお、今年は13回生にとって卒業50周年の節目の年です。同期の淵上さんが、「50周年を記念して、日比谷公会堂で毎年開催される『東京高校校歌祭』の壇上に13回生50人が上がって石神井の校歌を思い切り歌おうではないか」という提案があります。

毎年、10月に旧制中学を母体を持つ各高校同窓生が集い、校歌、応援歌を歌うのが『東京高校校歌祭』です。17年目の昨年は東大、一橋大の特別参加を含めて19校が出演しました。昨年の石神井高校は現役、卒業生混成のブラスバンドが出演して他校を圧倒する熱演を見せてくれましたが、今年は13回生が一堂に集って他校を圧倒したいものです。ぜひ同期生の皆さんの熱烈参加を期待しています。『東京高校校歌祭』の報道記事にご注目ください。

登山、ゴルフ、スキーに参加ご希望の方は下記に連絡ください。連絡、お知らせなどについて、不明の方が多く難儀しています。メールアドレスや住所変更のお知らせもよろしくお願いいたします。

悲しいお知らせもあります。昨年5月、近辻宏婦さん、9月、三船志芳子(伊藤)さん、12月に手崎政弘さん、本年5月村上勝さんの4人が亡くなりました。心からお悔やみ申し上げます。合掌。

13回生同期会連絡先/108-0074 東京都港区高輪1-11-2 Phone/03-3441-1530 Fax/03-3441-1559
携帯/090-3420-0179 メールアドレス/pr-nova.nonaka@nifty.com 野中雄介



3月24日 一昨年11月、ヒマラヤの6160メートルのアイランドピーク山頂を制した秋山奉由君のヒマラヤ写真展作品と作品展に集まった同期生



6月9日 高尾山日影尾根散策



9月15日 第25回13回生ゴルフコンペ(相武カントリークラブ)



11月21日 蕎麦忘年会(二人の蕎麦打ちが打つ蕎麦を肴に行う還暦富士登山隊の恒例の忘年会)

経営の根幹は登山同様、一步一步の積み重ね

株式会社明電舎 代表取締役社長 稲村純三 (高19回)

石神井時代は物理部に入り、電気関係をやっていました。毎日のように夜遅くまで理科室にいましたが、何をやっていたのかはあまり覚えていません。ただ秋葉原に電気部品を買いによく行っていましたから何かを作っていたのだと思います。天文の連中とは屋上で天体観測やったのは記憶に残っています。

スポーツは好きでしたので体育委員長もやりました。何と言っても最大の行事は体育祭でした。ハリボテのマスコット作りなんか、土建屋から丸太を借りてきて、本格的なものを作ってしまうのですが、石神井の伝統が生きているのを感じたものです。

今でもスポーツ好きで明電舎社内のスポーツイベントは軟式野球、ソフトボール、バスケット、サッカー、バドミントン、テニス、弓道と何でも参加していました。山登りとスキーは今でも続けています。

高校で物理部だったせいもあって、大学は慶応の工学部電気工学科に入り、明電舎に入社してからは一貫して自動車の開発用試験機の設計や製造をやっていました。社内シェアは10パーセント程度の仕事ですが、トヨタ、ニッサン、本田をはじめ国内外の自動車メーカー、部品メーカーと取引があり、国内シェアは60~70パーセントの実績があります。

車は進歩発展の度合いの早い市場ですから、メーカーの要望に素早く応じるためにいつも走っているかんじでした。とにかく立ち止まったら競争に遅れるという世界で、どのメーカーも新しいことに挑戦しているわけですから、試験機メーカーもつねに新しいことに挑戦する必要がありました。立ち止まるとはダメということを学んだ気がします。

今までは自分の仕事さえうまく行っていれば良かったのですが、社長になってみるとすべてのステークホルダーにまんべんなく気を配る必要性を感じています。株主、従業員、取引先はもちろんのこと、地域社会のことも非常に大切なことだと感じており、地域の清掃や、小学生を対象にした「物づくり教室」や音楽のコンサートなどを定期的に開催しています。

健康法としては、毎朝の出勤時に本社ビルの30階まで、692段の階段を歩いて登り、山登りができる身体作りに務めています。群馬に20年いましたので、上毛130コースの登山コースと群馬のスキー場は完全走破しました。毎月数回は山登りしていましたが、社長に就任してからはめっきり登山の回数は減りました。しかし、登山は経営に通じるものがあり、常

に山登りできる状態にしておきたく階段登りをやっています。

登山も経営も一步一步休まず登り続けることが基本です。苦しいからといって休んでしまつては、頂上に達することはできません。幸いなことに高校時代、あの寺沢先生の「ガントレ」で鍛えられましたから、体力は別としてもがんばり方は学びました。後は休まないという根気だと思っています。

登山は小学校時代から登っていました。小6の景信山が最初の山です。中学時代には山岳部に入り、丹沢、八ヶ岳などを登っていました。中学卒業後もその当時の仲間と一緒に日本中の山を登っています。北アルプスは、残っているのは西穂のジャンダルムと烏帽子岳ぐらいです。南アルプスも残っているのは聖方面だけという具合に結構登っています。

スキーも好きで、黒菱山荘には2回ほど行っています。当時スキー教室は人気があり、抽選で申し込みするため朝早く体育館に駆けつけ並んだものです。3年間で2回参加させてもらいました。

黒菱山荘の思い出は何といっても「トイレ掃除」です。山荘では色々な経験をしましたが、どういうわけかトイレ掃除が一番強烈な印象です。

スキー好きがこうじて三浦雄一郎のファンになり、デパートのサイン会でサインを貰ったこともありました。同窓会で三浦さんの講演会があったのですか、それは聞きたかったですね。残念です。

19回生の同期会は、年に一回11月の第三金曜日に開催していますが、一昨年還暦記念でやった時は130人くらい集まり盛大でした。幹事にマメな人がいるので助かっています。

これからも高校時代に学んだことや、よき同期の友達を大切に生きていきたいと思っています。



株式会社 明電舎 (創業 明治30年の重電機の老舗企業。資本金 170億7000万円、従業員数 3,707名、製品は発電機および変電機器、電子機器、情報機器、自動車試験装置など多岐にわたる)

記・野中雄介 (高13回)

世界100カ国以上で親しまれる『数独』の父

世界的なブームとなった『数独』の父と言われるニコリ社の鍛冶真起社長は、「世界を変える100人の日本人」に選ばれた石神井22回生

株式会社ニコリ代表取締役社長 鍛冶 真起

硬式テニスに明け暮れ

石神井に入学したのは学校群制度第一期のせいで、たまたまなのですが、石神井入学はラッキーでした。中学からテニスをやっていて、硬式テニスをしたかったのですが、当時、硬式テニス部のある高校は少なく、石神井高校はその希少価値のある高校でしたから。

当然、硬式テニス部に入りましたが、この部の人気は絶大で、1年生の男子だけで80人以上が入部するという人気ぶりでした。コートは2面しかありませんから、当然先輩諸氏は1年生部員を振り落とすにかけます。

その一つの手が夏休みまでラケットを買わず、ボール拾いに専念させることでした。これで夏休みまでに半分は退部していきました。そして次の手は雨の日の対応です。コートが使えないので三階までの階段を50回登り下りさせられます。これでまた部員が泣きべそかきつつ半減し、最後は7、8人に絞り込まれます。女子も同じでした。

そうして少数精鋭で鍛えられますから、石神井の硬式テニス部は伝統的に強く、インターハイ出場など大した功績には数えられない程でした。3年の時にはお蔭様で国体東京代表として出場して、番狂わせでベスト8にもなれました。

まあ、硬式テニスに明け暮れしていた石神井ライフに満足でした。ただ、そのベスト8の試合で足が痙攣してしまい、以後、選手としてのテニスとは決別しました。遊びのテニスなら今でもできますが。

魅了された黒菱山荘

小中からスキーをやっていたせいか、黒菱山荘にもまりました。高校で日本一高いところに山小屋があるという宣伝文句に魅了され、抽選にも勝ち抜き、山荘入りしましたが、いきなり連れて行かれたのが第三ケルンで度肝を抜かされました。

しかし慣れてくると3ケルンではもの足らず、丸山ケルンまで足を伸ばすようになり、ある春スキーのシ

ーズンなど上半身裸で滑ったら、火傷になってしまい今でもその跡が残っているくらいです。とにかく黒菱ゲレンデにはよく通いました。通算でいうと10回以上は行っているでしょう。

100種以上のアルバイト生活

慶應の国文科に入学しましたが、中退するまでの2年半も学校にはほとんど行かず、ずっとバイトの日々でした。喫茶店のウェ이터、流行歌手の付き人、この時は生まれて初めて一等車に乗りました。ニッサンの工場で溶接工もしました。新薬のドイツ語の翻訳、スキーの一時預かり所、盛り場での客引き、国鉄の大船駅では車両の清掃、建設現場での交通整理、交差点での歩行者の計測などなど、たぶん100種類以上の仕事を経験しました。

バイトをしながら、遊ぶのも好きで、とくに競馬と麻雀にはのめり込んで、不健康な生活スタイルを確立していました。社名にした『ニコリ』も当時、イギリスのダービーの一番人気だった競走馬の名前です。

雑誌好きが高じて

色々なものを詰め込んだ“ゴツタ煮感”のある「雑誌」というスタイルが好きでした。それで、出版社、印刷会社と勤めていくうちに、自分でも雑誌を作ってみたいって思い始めました。

どんな雑誌を作ろうかと悩んでいた頃、米国から帰ってきた友人が、土産に見たことのない雑誌を持ってきたんです。それがアメリカのパズル雑誌でした。



古川先生と鍛冶社長

色々調べてみると、その頃、日本にはパズル雑誌がなくて、「ないんだったら、作れば売れるかな」って、書店の洋書コーナーのパズル雑誌を買いあさって、見よう見まねでとりあえず作ったのが創刊準備号です。

アメリカのパズル雑誌の中で「数独」の原型となったパズルにはまった理由は英語のできない私でもこのパズルなら解くことができたというのが最大の理由です。パズルの問題が英語だったら歯が立ちませんが、数独だったら言語の壁がゼロです。後で考えると、言語の壁がないのが世界でブームになった最大の要因だったようです。

掛け率も知らない素人集団

創刊準備号は、編集、パズル制作、レイアウト、デザイン、印刷まで全て自分たちでやりましたが、素人の悲しさ、定価を入れ忘れしました。それを大阪の玩具屋さんが、「じゃあとりあえず100円で売ってみるよ」ってことで値段が決まったんですが、売り出したら2カ月で300部売れて、置いてくれる店も出てきました。

しかし次がいつ出るか分からない不定期の雑誌なうえに、会社組織すらないので置いてくれる書店が増えず難儀しました。

その頃、雑誌販売のプロに会うことができ「鍛冶さん掛け率はいくら」って聞かれ、「カケってなんですか」ってとぼけた質問をして呆れられたものです。その頃の私は真正正銘の素人でした。ともあれ、今でも取り次ぎを通さず書店に直販しています。

その後も素人集団のドタバタ劇が続きましたが、「数独」が世界で広まった切っ掛けはニコリのパズルファンだったニュージラント人がイギリスのタイムズ紙に売り込みに行って、すぐに掲載が決まりロンドンから火がついて海外でヒットし始めました。

「数独」というネーミングですが、最初は「数字は独身に限る」というタイトルでした。数字は1から9までの一桁はシングルで、シングルは独身という意味ですが、あまりに長いので、「数」と「独」だけ残し「数独」に決め、今や世界中「SUDOKU」が共通語になっています。

ニックネームは「非常勤社長」

仕事も好きですが、遊びも好きで競馬、競輪、ゴルフ、釣りなど楽しみ、年に二度くらい世界一周旅行もしています。会社には日3時間ぐらいしか出社しないので、「会社の道楽息子」というあだ名を経て、現在は「非常勤社長」と言われています。

ただ、好奇心旺盛なことで100種以上のバイトを経験し、好きなことを徹底してやっていたら現在の自分に辿り着いたという気分です。ですから楽しいこと、好きなことをやっていたら必ず自分のやるべきことが見つかるかと私は確信しています。



記・野中雄介(高13回)

「きずな」がお手伝いします。

同期会・クラス会・部活OB会等の開催通知を本誌に掲載します。幹事さんは、会の名称、開催日時、場所、会費、幹事名、連絡先等をお知らせください。3月末までに通知いただければ、次回の「きずな」に掲載します。(同窓会事務局へ、文書、ファックス、メールで連絡してください)

宛先 都立石神井高校同窓会事務局

〒164-0002 中野区上高田1-14-7 「せいとう」本部内

TEL/FAX: 03-3319-1122 E-mail: jo-k@seitow-aoshima.co.jp

なお、同期会の場合は、同窓会から「宛名シール」を提供できますので事務局にお問い合わせください。

卒業生の文化功労者顕彰を讃えよう

卒業生の中に、文化功労者顕彰を受けられた方がお二人いらっしゃいます。2009年の古在由秀（中1回）さんと2007年の海老澤敏（高3回）さんです。皆さん、お二人の業績を母校の誇りとして讃えようではありませんか。今秋の母校創立70周年記念式典の際には記念講演をお願いしておりますが、まずは本誌にご登場です。

本校草創期（十四中時代）の恩師と友人の思い出

古在 由秀（中1回）

古在 由秀さん（日本学士院会員、群馬県立ぐんま天文台長、東京大学名誉教授、国立天文台名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授、最後の東京天文台長、初代国立天文台長）

天体力学の研究と学術振興ということでこの度、文化功労者として顕彰され、身に余る光栄と感謝しております。

天体力学では、人工衛星の軌道を割り出す「コザイの式」や小惑星の軌道に関する「古在機構」で注目を浴びたと新聞などには書いてありましたが、実際に「コザイの式」という名称そのものが、NASAが私に一言の断りもなく勝手につけた名称でたいしたことではありません。

ただ、地味な学問領域である天体力学分野の受賞は、若い天文研究者の将来に夢を与えるという点で喜ばしいことと思いがたく頂戴いたしました。

さて、石神井高校の校誌ということで、以下私と石神井について思い出話をしてみましょう。

そもそも 小学校の成績が芳しくなく、志望中学の選択で迷っていた時、新設中学「府立十四中」の生徒募集案内を見たのが、入学の切っ掛けでした。しかし、当時の十四中は学校はできたものの、校舎はなく青山にあった青山師範が移転した跡の古ぼけた校舎を間借りしてしていました。

三年生の時にやっと武蔵関に校舎ができ、名前が府立石神井中学、東京都になって、都立石神井中学になりました。青山から武蔵関への引っ越しは全員が徒歩で行ったものでなかなか壮観な行列でした。



当時の西武線は故障が多く、武蔵関から高田馬場までよく歩いた記憶もあります。あの頃はそれくらいの距離を歩くのは苦痛でもなんでも無かったようです。

十四中の先生方の多くは、戦後になって大学に移られ、担任だった国語の手崎先生は富山大学の文理学部長に、体操の橋本先生は岐阜大学の教育学部長に、英語の斉藤先生は東京教育大学の文学部長になられ、数学の松原先生は東京学芸大学に長く勤務されていました。

悪戯好きの生徒が手崎先生のマンガを黒板に書いた時、それを見た手崎先生がいきなり「古在が書いたのか」と言うので「こんなに上手く書けると先生は思いますか」と反論したら妙に先生が納得されたのも楽しい思い出です。

十四中の最後の年は陸軍造兵廠での勤労働員で授業はほとんどありませんでした。私は旋盤工でした

が、口の悪い奴らに「古在の旋盤で戦争に負けた」とよく言われたものです。授業を受けられなかったことは幸いで、「悪い教育を受けずにすんだ」と今では思っています。その頃の悪童連中とは今でも時々会っています。

その後は、石神井から第一高等学校理科、そして東大で天文学科に入り、地味な古典天体力学が性格的にあっていると考え終生の学問分野にしました。天体の軌道要素を求める計算は膨大な作業なので、現在では電子計算機を使用しますが、当時は手回しの計算機しかない時代でした。その手回し計算機では東京天文台では私がチャンピオンだったことも誇らしい思い出の一つです。

ところで第一回生同期会は卒業後10年ほどたってから始まりましたが、ある時期に若くして亡くなった、和算研究の大家であった下平和夫君が苦勞して組織化され、私が会長に、50歳で東京学芸大学学長になった阿部猛君が幹事長になりました。その最後は一昨年でしたが、参加者が50人をきったので、これでやめようと提案しました。

それでもまだやろうということで、昨年 横山欣司、牧治、竹内節君が幹事で、会を開き、今年も10月1日に会があります。手崎政男先生はずっと出席されています。

阿部猛君は、松原先生が教授であった頃から学長になったのですが、「阿部は幾何ができなかった」と、皆の前でよく言われたそうです。体操の不得意だった深井龍雄君が、岐阜大学教育学部の助教授になった時、橋本先生がいたそうです。彼も後に学部長になりました。ついでながら、私は石神井中学で習った英語で、1988年から三年間、国際天文学連合の会長を勤めました。

現在は、群馬県立ぐんま天文台の台長を仰せつかっていますが、ここでは一般見学者を歓迎しています。昨年のゴールデンウィーク中には千人を超す一般見学者が来てくれその対応に忙殺されましたが、もっともっと天体に関心をもってもらおうよう見学者を増やしていきたいと考えています。皆様のご来場を期待しています。

記・野中雄介(高13回)

モーツァルトとルソーがライフワーク

海老澤 敏(高3回)

石神井高校創立70周年おめでとうございます。2007年度の文化功労者として顕彰されたことが縁で、母校の校誌にお祝いを述べる機会をいただき誠に光栄です。

私が文化功労者に顕彰されたのは60年以上にわたるモーツァルトの研究を評価いただいたもので、その他、ルソーの研究もありますが、まずは校誌ということで、石神井時代の思い出を一つ二つお話いたします。

当時、私は田無駅の近くに住んでいましたが、戦争の最中ですから、田無でも空襲は毎度のことで、線路の北側にいた親戚が一家全員空爆で死んでしまったのをよく記憶しています。

石神井高校のあたりも空爆の標的にされ、我々生徒は校庭の南側の林によく避難したものでした。米軍の爆撃機に日本軍の戦闘機が挑み、体当たりする瞬間を実際にこの目で見たこともありました。戦闘機からパイロットがパラシュートで降下しましたが、



傘が開かず、そのまま地面に激突するシーンも記憶に鮮明です。

西武線が空襲で止まってしまう、徒歩で自宅に戻る途中、米軍戦闘機の機銃掃射に遭遇し、逃げまどったこともありました。ちなみに3月10日の東京大空襲は自宅の物干し場から真っ赤に染まった東京の

空を眺めていたものです。

そんな殺伐とした時代で焼け跡の後片付けなど結構やらされましたが、勉強はよくした記憶があります。当時、第二外国語が選択科目であり、私はフランス語を選択しましたが、大勢いたフランス語受講の生徒も1年後には3人しか残っておらず、フランス語の授業が残念ながらその後消滅してしまったこともありました。

その3人とは、劇団四季の俳優で先年惜しくも死去した水島弘(本名・弘道)君と、舞台照明家として高名を馳せ照明家協会の会長も務めた吉井澄雄君と私でした。吉井君とは今でも年1回ぐらいは会って昔話を楽しんでいます。その他、その頃からの友人では現在、フェリス女学院の理事長を務めている小塩 節さんも今でもお付き合いしている旧友です。

石神井卒業の年に、そのフランス語で東大を受験し入学しましたが、2年になり専攻を選択する時、当時、人気抜群で志望者が殺到していた仏文を嫌って美学を選択したのが、そもそもモーツァルト研究にのめり込む切っ掛けとなりました。

その後、フランス留学ではルソー研究に励みましたが、帰国後さらにモーツァルト研究にのめり込み、一貫してモーツァルトの研究を続けてきた結果、今日の私があると確信しています。

昨今、モーツァルト没後200年祝年や生誕250年祝年などの催しや沢山の出版、はたまたモーツァルトで健康維持、病気回復といったモーツァルト療法などが相次ぎ、一種のモーツァルトブームを巻き起こしています。

しかし60年もの間、モーツァルトを研究し、その結果、モーツァルトのあの人間技と思えない作曲家としての偉業を見て、真剣にモーツァルトは宇宙人じゃなかったかと思っている私にとって、どうも世間の人々の思惑は軽佻浮薄そのものに見えて仕方ありません。モーツァルト研究の一学徒として、この

校誌をお借りして、お願いしたいことは、もっともっとモーツァルトを聴いてほしいこと、そして、演奏家にはもっともっとモーツァルトを弾いてほしいことです。このことをこの機会に強く申し上げます。

さらに私はジャン・ジャック・ルソーの研究もしていますが、「エミール」「民約論」などで思想家として知られるルソーは実は作曲家でもあり、皆さんよくご存じの「むすんでひらいて」の原曲を作った人でもあります。これら世間にあまり知られていないルソーの作曲家や音楽思想家としての事蹟も今後さらに研究を進めていく計画です。



海老澤 敏さん(東京府生まれ。本校を経て、東京大学文学部美学科卒業。国立音楽大学教授、同学長、学園長を歴任し現在は名誉教授。2007年文化功労者受賞顕彰。新国立劇場前副理事長兼オペラ研修所所長、日本モーツァルト研究所所長、ザルツブルク国際モーツァルト・ウム財団名誉財団員兼モーツァルト研究所所員、ポローニャ王立音楽アカデミー名誉会員でモーツァルト研究の権威。奥様はピアニストの小川京子さん)。

記・野中雄介(高13回)

原稿や写真を募集しています

同期会・クラス会・部活OB会等の写真・原稿(800字程度まで)を事務局にお寄せください。次号に掲載します。いろいろな事情で今回は不参加の人も、次は必ず出たいものだと思いますよ。

宛先 都立石神井高校同窓会事務局

〒164-0002 中野区上高田1-14-7 「せいとう」本体内

TEL/FAX : 03-3319-1122 E-mail : jo-k@seitow-aoshima.co.jp



討 報

トキの人工繁殖に成功したトキ保護の近辻宏帰君が死去

石神井高校13回生でトキの保護や人工増殖に長く携わった元佐渡トキ保護センター長の近辻宏帰君が2009年5月5日、食道がんのため新潟県佐渡市の病院で死去。享年66歳。

近辻君は中学生時代から、インコ、ジュウシマツ、カナリアなどを飼うなど鳥好きで、中学校の行き帰りに近所の小鳥屋に寄るのが楽しみだったという根っからの野鳥ファン。石神井高校に入學してからは生物部の野鳥班に所属し、高尾山付近で野鳥観察活動をしていた。高尾山は野鳥の宝庫で、ここで毎週のように野鳥観察に従事し、サンコウチョウなどの観察にも成功していた。

早大に入學してからも生物クラブに籍を置き、時間が許すかぎり鳥の観察に出かけ、山階鳥類研究所にも頻繁に訪れていた。

生物クラブの活動で西表島において生物の観察をしていた時、イリオモテヤマネコの足跡を発見したものの、イリオモテヤマネコ本体の発見までにはこぎ着けず、「世紀の発見を逃した」と晩年まで残念がっていた。

早大卒業後、国立公園のレンジャーを希望し、東京農業大学林学科に学士入学、同大学院を修了した1967年3月、新潟県が「佐渡のトキ保護を担う人」の募集をしているとの情報に接して、応募したのが、トキとの出会いであった。

結果的に1967年から36年間、「環境庁・佐渡トキ保護センター」に勤務、結婚相手もトキ保護センターのある新穂村から迎えた。

昭和50年代、13回生同期の筆者が佐渡のトキ保護センターを訪問した時期は、繁殖失敗の連続の頃であったが、同期のよしみで、一般の人は入れない「トキ保護センター」の中核部に入れてくれ、野生最後のトキを見学することができた。

流石に野鳥の専門家で保護センターまでの往復の山道で野鳥が飛んでいると「ウソのメスだ」とか、「カケスのオス」だとか専門家らしい声をあげるのが野鳥オタクの近辻君らしいところだった。

当時、環境庁のお役人がトキ保護センターの視察に訪れる時など当然のこととして、センター長の近辻君が案内役を仰せつかっていたが、繁殖に失敗していた頃ただけに、身を縮めて対応している痛々しい姿を見るのは辛いものがあった。

それだけに、中国から贈られたつがいのトキの繁殖に成功し、2008年9月25日、秋篠宮夫妻をサポートしてトキを放鳥する近辻君の姿をテレビで見た時は万感胸に迫るものがあった。早すぎる逝去だったが、仕事をやり終えた満足感をもって逝ったに違いない。合掌。

野中雄介(高13回)
写真提供/日経ビジネス



校友会誌『澄心』をめぐる騒動 佐藤 健(高3回)

—— 母校70年の歴史の中、戦前戦後をまたぐ旧制中学のころ、校友会発行の『澄心』という雑誌があった。今これを眺めると、当時の中学生がこれ程完成度の高いものを作りえたのかと感動を覚えるのである。——

その校友会誌の用紙は仙花紙という灰色の再生紙。写真や色刷りは皆無である。しかし、どんなに装丁紙質はお粗末でも、その記事には珠玉の輝きがある。昨今の凡百の高校同窓会誌など足元にも及ばないレベルの高さだ。

ところで戦後、復刊(第3号)に際して、誌名を従来通りの『澄心』にするか、新しい名称にするかが問題になった。『澄心』は「ちょうしん」と読み、校章である梅の花言葉「清く澄んだ心」に由来するという。

戦時思想を反映しているようで、古臭いというのが新名称推進派の見解。これに対して、伝統を守ろうとするのが『澄心』派の主張である。一見すると、高級な議論のように見えるが、その実体は5年生と4年生との確執である。大騒動は昭和21年の新学期から始まった。

余談だが、戦時下の中学校は軍隊をマネする傾向があったから、学年序列が上下の階級と考えられ、上級生が威張っていた。道で出会ったとき、下級生が敬礼を怠ると殴られたりした。軍隊のリンチのようなことが行われたのである。

ただし、学校によって多少の差はあり、初代校長の丸山正雄先生は府立五中(現都立小石川高校)から来られた方で、五中のリベラルな気風を取り入れようとされたから、石神井には極端な軍隊式が横行したわけではない。私の母親は息子が上級生に殴られることを心配し、そういう懸念の少ない石神井中を受験しろと勧めたほどである。

戦後になり、暴力行為は減っていったが、人間の気持ちは簡単に変わらないから、時には学年間でイザコザが起きた。特に隣接した学年は仲が悪く、その中でも5年生と4年生とは事あるごとに対立した。

5年生には戦時下の『澄心』を知るのは俺達だけという意識がある。4年生は今や新時代である、新しい名称を取り入れるべきだと反論した。大論争となったが、双方に譲歩する気持ちがないから決着がつく筈もない。ところが、この対立が別なところで爆発したのである。

昭和21年11月、創立七周年記念の大運動会のときである。運動会には紅白に分かれて団体戦があるものだが、その場合は全学年をタテに割るのが普通である。ところが悪知恵のある者がいて、ヨ

コ割り方式を提案した。5年3年1年を赤組、4年2年を白組に分け、闘争心を刺激すれば運動会が盛り上がるというのだ。「これは面白い」ということでこの提案が採用された。

予想通り11月10日の運動会は、白熱の興奮状態となった。その中でもメインは5年対4年の「棒倒し」である。日頃の鬱憤晴らしの絶好の機会となり、暴力公認の競技として殴る蹴る引っ掻く、何でもありの乱闘になった。加えて双方1勝1敗でプレーオフにもつれこんだから、体操着は破れ放題で、怪我人が続出し救護所は満杯。

この話はウソではない。当日、私の義兄が見物に来ていた。戦地から帰還した直後で、腕力抜群、喧嘩大好きの人である。その彼が「あんなに痛快な棒倒しは軍隊でも見たことがない」と、今でも言っているのだから。

3日後は「創立記念学芸会」であった。演劇の部の一つが『海彦山彦』である。海彦役の5年生があこの「棒倒し」で骨折したから大騒ぎ。急なことなので代役も立てられず、本人がムリに出演した。左腕を包帯で吊った奇妙な海彦が舞台に現れたものである。「慣れない山狩りに行って、こんな大怪我をした」というアドリブで満場を笑わせた。

やがて、発行予定日が迫ってきた。そこで、生徒全員よる投票で決定することとなったから、今度は激烈な選挙戦である。迷惑したのは3年生以下で、5年生と4年生が盛んに教室に来て、我が方に投票せよと迫ったものである。

昭和22年1月8日の始業式の日、「校友会誌名選挙 決選投票」が実施され、『澄心』が勝利した。第3号の編輯後記には淡々と535対335であったと書いてある。あの時、私はどうしたか、今になっては記憶も定かではないが、敗れた『石神井』に1票を投じたのだと思っている。

これは60年以上も前の話である。事の推移を正確に覚えているわけではないが、微かな記憶の中に、あの時の熱気だけが懐かしく思い出される。

生徒の一人ひとりに一途な気持ちがあった。校内行事や印刷物発行などは、すべて生徒主体で行われていた。そういう時代が確かに存在したのである。この事実だけは誰も否定しないだろう。

青山石神井倶楽部・「二火会」の発足について

発起人 佐藤 健(高3回)

ふと、旧友に会いたくなかった。相手が一人なら、日取りと場所を決めるのは簡単だが、4人、5人ともなると調整に一苦労しなくてはならない。だから、一定の時、一定の場所にそういう常設の「仕組み」があったら便利だろうな、と思ったことはないだろうか。

仮に、毎月14日に帝国ホテル「鶴の間」で石神井OB会が開催されており、本校卒業生が自由に会食できるということが皆さんの共通認識になっていたら、ことは簡単である。次の14日に「鶴の間」に集まろう、と声をかけるだけで済む。来るか来ないかは相手の勝手。場所や日程の決定で苦労する必要がない。まとめ役の苦労が減るからグループの会合が盛んになるかもしれない。

そこで考えました。帝国ホテルではカネがかかるから、少しグレードを下げ、青山にある二つ星半のレストラン『あおしま青山店』をその「一定の場所」と決め、毎月第2火曜日を「一定の時」としたのです。元来、同店は「石神井倶楽部」ということで同窓会・同期会の集まりなどで利用されていますから、おなじみの人も大勢いらっしゃるでしょう。

つまり、第2火曜日は石神井OBに対する特別サービスデーとなります。ついでに、セットメニューの「お任せコース」を3000円で提供してもらうこと

としました。もちろん、別オーダーや追加注文もOKです。こうすれば、気軽ですし、予算も立てやすいでしょう。

同窓会の願いは会員同士の連携強化です。皆さま、ぜひ、この場を活用していただきたい。しかし、知らぬ者が同じテーブルを囲むわけではありません。旧友だけで歓談できます。予約もいりません。ぶらりと来ていただきたい。同窓会の役員会も、なるべくこの日に開催するようにします。

毎月第2火曜日をお忘れなく。ただし、当日が休日の場合は、翌日となります。お店の人に「二火会」に来たと、お声をかけてください。

なお、同店では二火会での売り上げの5%を同窓会に寄付するというご意向であることを付言しておきます。

「二火会」のご案内

日時 毎月第2火曜日(休日の場合は翌日)の午後4時から終業まで 入退場フリー
 場所 レストラン「あおしま青山店」
 〒107-0061 港区北青山1-2-3(青山ビル地下1階)
 TEL03-3403-3461(FAXも同じ)
 地下鉄 銀座線、半蔵門線、大江戸線の青山1丁目下車0番出口の近く

2010年度版会員名簿 刊行のお知らせ

新しい会員名簿ができました。

会員同士の連携、親睦を図るためには「会員名簿」がお役に立ちます。手元に置けば、きっといつか、これがあってよかったと思うことがあるでしょう。ぜひ、お買い上げください。

価格は1冊4500円です。

お問い合わせ・購入申込みは 都立石神井高校同窓会事務局へ。

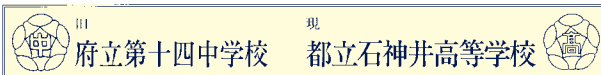
〒164-0002 中野区上高田1-14-7 「せいとう」本部内

TEL/FAX : 03-3319-1122 E-mail : jo-k@seitow-aoshima.co.jp



東京校歌祭 に 行って見よう!!

参加者大募集



第18回東京校歌祭

（主催 東京校歌祭振興会）

日時 平成22年10月2日（土）

場所 日比谷公会堂

集合場所

公会堂正面階段付近

同窓会の旗が目印し

第3回以来皆勤

集合時間：出演予定時刻が未定のため、9月に入ってから下記へお問い合わせください。

服装自由：家族・友人・恋人の同伴大歓迎

入場料・出演料：無料 交通費は各自負担
終われば楽しい「反省会」
（反省だけでも可）

（今年は団体参加がある予定につき、さらなる盛り上が期待されている）

お問い合わせ 杉本幹男（高14回）

TEL:090-2902-9088または事務局へ

Eメール:mikiosugimoto@hotmail.com



編集後記

老骨にムチ打って、今年も編集を引き受けました。御年七十七歳の私、体力の限界を越えています。

編集作業で大変なのは誤字脱字の修正です。これで骨身を削ります。特にパソコンの文字変換ミスは、書いた当人も、校正者も気がつかない場合があるから怖い。

何十年も前に使っていたR社のワープロで、「正義感」と打ったつもりが「性快感」と出てきたときは、のけぞりました。

今回は、頂戴した原稿には一切手を加えておりません。すべて原文のママです。去年、皆さまの文章を勝手に直して不評を買い、反省したからであります。

と言っても、「同総会」では困ります。やはり校正の苦労は残るわけです。ですから、いつまでも、こんなことを年寄りにやらせてはいけません。次号は、誰か代わってくださいね。

（佐藤 健 高3回）

警告!!

同窓会が名簿刊行を委託している業者は（株）サラトです。これ以外の者とは一切関係がありません。他の名簿業者からの調査カードや購入勧誘には、くれぐれもご注意ください。安易に回答しますと、後日、掲載料を請求される懸念のあることに留意願います。